

数 学 科 学 習 指 導 案

那覇市立松島中学校
平成14年10月15日
授業学年 1年

1 教科としての数学科の特性

教科としての数学科の特性をまとめ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため少人数指導の工夫・改善に取り組むこととした。

数学科の特性としては、

-) 基礎的・基本的事項の積み重ねが重要視される。
-) 既習事項の定着度、学習速度、得手不得手など著しい個人差がある。
-) 学習内容に系統性や関連性が高い。

があげられる。これらの特性のうち、少人数指導では著しい個人差を補う指導、つまり個々の生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導の展開が期待される。

2 少人数指導の基本的な考え方

少人数指導を効果的に行うためには、学びの集団の人数という量的な側面も重要であるが、それ以上に子ども一人一人がいかに関わりやすく学ぶことができるかという質を重要視しなければならない。

そのためには、既習事項の定着度や学習速度などに応じてクラス編成の工夫を行い、担当する教師の綿密な打ち合わせをもって学習指導に臨まなければならない。

さらに、個々の生徒の実態に応じたきめ細かな授業を展開し、数学に対する学習意欲を高め、基礎的・基本的事項を確実に定着させる指導を心がけなければならない。

したがって、指導する集団の特質と授業づくりの方向性を明確にして取り組んでいく必要があると考える。

3 少人数指導を導入した授業の実施計画

(1) ねらい

特に学習の遅れがちな生徒に対して、生徒の実態に応じた授業を展開することで、「分かる授業」「問題の解ける授業」を目指す。

数学の問題を解く喜びを味わうことで、数学を学習する自信と意欲を持たせる。

数学に関する意欲の喚起を図り、基礎的・基本的事項の定着を図る

(2) 実施学年 第1学年(通年)

受検を控えた3学年での実施も検討したが、次の理由で本校数学科では1学年での実施とした。

数学は他の教科に比べ基礎的・基本的事項の積み重ねが重要視されるので、できるだけ個人差の少ない時期に実施するのが望ましい。

1学年の数学では、これから学習を進めていく上で最も重要な「正負の数」や「文字と式」等の内容を扱うため、基礎的・基本的事項の定着が不可欠である。

名称が算数から数学へと変わり、生徒たちは中学校へ入学し新たな気持ちで学習を進めていこうという時期であるため、少人数指導の学習効果が現れやすい。

少人数指導が個に応じた指導の充実のためのものであり、受検対策のものではないこと。3学年での実施は、ともすればその意義をはき違える恐れがある。

1学年は生活指導的な問題が少ない。

(3) 実施形態 1つの学級を既習事項の定着度に応じて2つのクラスに編成する。

習熟度編成をする理由

少人数指導を効果的に行うためには、単に学びの集団の人数という量的な側面も重要であるが、それ以上に子ども一人一人がいかに関わりやすく学ぶことができるかという質的な側面も重要視しなければならない。

一つの学級をいくつかの集団に編成し学習指導を行えば、個に応じた指導は十分に展開されるだろう。しかし子どもたちの学びやすさも重要視しなければ、それは単に量的な側面で生じる利益でしかない。

習熟度によるクラス編成を行えば、既習事項の定着度や学習速度等の個人差の幅が小さくなり、より生徒の実態に応じたきめ細かな指導が展開できると考える。

1つの学級を分ける理由

「学級」という枠をできるだけ壊さないように考慮した。

また、2学級を解体し新たに3クラスに編成して学習指導をするには、時間割表で3人の教師を同じ時間帯に設定する必要があり、数学科4人の本校では時間割編成に困難が生じることが予想される。また学年の掛け持ちも生まれるので、学年ごとの行事のときには補欠が生じるなど不都合な点もある。

(4) 編成方法

学習に遅れがちな生徒を10名程度選出し、少人数編成を編成する。

基礎的・基本的事項の定着を目指すため、少人数編成では生徒一人一人によりきめ細かな指導が行き届くように、10名程度とできるだけ絞って編成する。

選出の方法としては、本人の希望をもとに定期考査の結果等で判断して行う。

生徒がクラスを選択するときに抵抗をできるだけ少なくするように、習熟度ということばを使わずに、数学が苦手かどうかを目安に呼びかけるようにする。

クラスの人数を調整する必要がある場合は、教師が既習事項の定着度や学習速度等で判断する。

少人数指導のクラス編成は定期考査ごとに行う。

クラス編成の生徒への希望調査は定期考査の中にいれる。本来ならば单元ごとのクラス編成が望ましいと思われるが、定期考査の日にはほとんどの生徒が出席すること、全員一斉に調査できること、定期考査に向けて普段より学習時間が多くなり、生徒の学習の成果が表れやすいことなど利点もある。

少人数編成に「マティック」というネーミングをつけた。

少人数編成にネーミングをつけることで、習熟度編成という印象を和らげるようにした。

1学期の5月中旬までは、生徒一人一人の学習に関する資料が乏しく効果的な編成が難しいこと、また生徒も正しくクラスを選択できる力がないと思われるので、「正負の数」の加法まではTTによる指導を行った。参考までにこれまでのクラス編成の人数を挙げると次のようになっている。

	TT 指導	少人数指導	少人数指導	少人数指導
期 間	1学期始業から 1学期中間まで	1学期中間から 1学期期末まで	1学期期末から 1学期終業まで	2学期始業から 2学期中間まで
親 学 級	39	23 ~ 27	23	27
少人数編成	0	12 ~ 16	16	12
合 計	39	39	39	39

(5) 指導方針

親学級と少人数編成を指導方法改善加配教員と教科担任の両方で担当する。

前年度の少人数指導の大きな課題として、クラス編成の方法が挙げられる。

これは担当教師を1年間固定して指導したため、2学期後半頃から、生徒たちは担当教師の選り好みでクラス編成の希望をだすようになり、習熟度別編成を取り入れた少人数指導本来の意義を十分に達成できなかったように思われる。

そこで今年度は担当教師を固定せず、生徒が習熟度別編成を取り入れた少人数指導本来の意義が達成できるようにした。

担当教師を固定せず学習指導を実施するために、綿密な打ち合わせが必要になる。特に、単元全体や節ごとの指導時数について揃えるようにしたり、発表回数や授業中のノート点検などの評価項目を統一したり、プリント学習では共通のものを使用するなど、連携を充分にとるように心がける。

親学級では、基礎的・基本的な内容のほか、発展的・応用的な内容にも取り組む。

少人数編成では、学習内容の精選や問題の簡略化、既習事項の確認等を行い、基礎的・基本的事項の定着を徹底する。

学習進度は揃えるように心がける。

定期考査は全生徒統一で行い、教科書や共通教材等から出題する。

評価は、定期考査と学習への関心・意欲の点数化で行う。

(6) 指導上の留意点

共通事項

「学級」という枠を少しでも大切にしたいと考え、単元の導入や章の問題などでは必要に応じて1つの学級でITによる学習指導を実施する。

ペア学習を取り入れ学習意欲の向上を目指す。隣の座席の人は基本的に自分で選べる。

授業の段階を「課題把握 全体追究 個人追究 確認」の4段階に分けて考え、授業の展開の工夫を意識するようにしている。親学級と少人数編成では集団の特質が違うので、どの段階を大切にしなければならないのかを考え、生徒の学習活動につなげていくよう留意する。

親学級

親学級は主として成績中位以上の子どもたちで構成されている。授業の段階では、個人追究を重視し、一人一人の学習活動を大切にしたい。

上位の子どもたちは、既習事項や基礎的・基本的事項は、ほぼ定着しているので新たな知識の習得をスムーズに行うことができる。また、発展的・応用的な問題や数学的な考え方に焦点を当てた問題にも取り組む。

中位の子どもたちは、理解力がある子や理解していくまでに時間がかかる子などが混在している。基礎的・基本的事項がきちんと理解できるように、つまずきの箇所を集中して学習を進める。教科書の学習内容を中心に基礎的・基本的事項の確実な定着を目指し、加えて発展的・応用的な問題にも挑戦していく。

ともすればこれまでの授業と同じになりそうな恐れもあるが、定着が極端に遅い生徒がいないメリットを生かし、時間に余裕ができる分をより多くの問題を解いたり、発展的・応用的な問題の指導に充てる。

少人数編成

少人数編成は主として成績下位の子どもたちで構成されている。授業の段階では、課題把握を重視し、これから何をしようとしているのか目的意識を大切にしたい。基礎的・基本的事項の理解が不十分である場合が多いので、個別に充分関わり、理解の程度に応じた指導をする。つまずきが多く、丁寧に復習をすることが必要である。そのため10人程度の少人数に絞り、個々の生徒の実態に応じて指導が行き渡るようにする。

基礎的・基本的事項の定着を第一に考え、個々の生徒の理解度によって問題の数や難易度を調整し、問題が解けた喜びが実感できるような指導をしていく。

少人数編成では、前時の復習や本時の学習に必要な内容を確認するために「今日の計算」を授業の導入として取り組んでいる。

4 授業実践

(1) 単元名 方程式 (第1学年)

(2) 単元の指導計画および目標

節	項	時間	学習事項	ねらい
方程式	方程式	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 等式の意味 ・ 数量の間の関係を等式で表すこと ・ 方程式とその解、および方程式を解くことの意味 ・ 等式の性質 ・ 等式の性質を使って簡単な方程式を解くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天秤の操作を通して、等式の性質に関心をもつ。 ・ 数量の間の関係に関心をもち、文字を用いてその関係を表そうとする。 ・ 等式や左辺、右辺の意味を理解する。 ・ 数量の間の関係を等式で表すことができる。 ・ 方程式とその解の意味を理解する。 ・ 天秤の操作と式変形を関連させて等式の性質を導くことができる。 ・ 等式の性質を理解する。 ・ 等式の性質を使って、簡単な方程式を解くことができる。
	1次方程式の解き方	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移項の意味 ・ 移項の考えを使って方程式を解くこと ・ かっこを含む形の方程式を解くこと ・ 小数係数をもつ方程式を解くこと ・ 分数係数をもつ方程式を解くこと ・ 1次方程式の意味 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より合理的な1次方程式の解き方がないかを考えようとする。 ・ 移項の意味を理解する。 ・ 移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ・ かっこを含む形の方程式の解き方を考え、それを解くことができる。 ・ 小数や分数の係数をもつ方程式の解き方を考え、それを解くことができる。 ・ 1次方程式の意味を理解する。
	基本の問題	0.5	(問題演習)	(生徒に身に付けさせたい内容の問題)
1次方程式の利用	1次方程式の利用	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の間の関係を方程式で表すこと ・ 問題解決のために方程式を用いること ・ いろいろな問題例とその立式における考え方 ・ 文章題における解の吟味 ・ 方程式を使って問題を解くときの手順 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決のために、方程式を活用しようとする。 ・ 数量の間の関係を方程式に表すことができる。 ・ いろいろな問題例とその立式における考え方を理解する。 ・ 方程式を使って文章題を解くことができる。 ・ 方程式を使って文章題を解くときの手順を理解する。 ・ 問題によっては、方程式の解がそのまま文章題の答にならない場合があることを知る。
	基本の問題	0.5	(問題演習)	(生徒に身に付けてさせたい内容の問題)
	章の問題	1	(問題演習)	(章全体の復習と応用を兼ねた内容の問題)

(3) 単元について

小学校では、 \times や \div を用いて数量の間の関係を表したり、それにあてはまる値を調べたりしている。しかしそれは逆算によって求めているので等式という意識は弱い。この章では、方程式を等式と見て等式の性質を用いて解くことをねらいとしている。

等式の性質を用いた解法から移項という見方に発展させることにより、「方程式が一定の手順によって解ける」というよさを感じさせ、さらに文章題においても、「その中の数量の間の関係を方程式に置き換えそれを解くことによって解決できる」というよさを感じさせ、方程式を活用していく態度を育てたい。

(4) 基礎的・基本的事項

等式や方程式における、左辺、右辺、両辺などの意味が理解できる。

方程式の意味が分かり、その中の文字や解の意味がわかる。

等式の性質がわかる。

等式の性質を使って簡単な方程式を解くことができる。

移項の意味がわかる。

移項を使って簡単な1元1次方程式を解くことができる。

具体的な問題で方程式をつくり、その方程式を解くことができ、具体的な問題を解決することができる。

(5) 学習指導実践例

日時

平成14年10月15日 火曜日 5校時(午後2時25分～3時15分) 50分間

学級

那覇市立松島中学校 1年3組

在籍

	男子	女子	合計
親学級	14人	13人	27人
少人数編成	5人	7人	12人
合計	19人	20人	39人

学習内容

1次方程式の解き方(第3時間目) 係数に分数をふくむ方程式

目標

ア 分数の係数をもつ方程式の解き方を考え、方程式を解こうとする。

イ 分数の係数をもつ方程式を分母をはらって解くことができる。

ウ 分母をはらう利点を理解することができる。

エ 「分母をはらう」「1次方程式」の意味を理解する。

学習内容について

分数係数の1次方程式について、分母をはらってから解く方法を理解し、それを解く学習内容である。

分数係数の方程式であっても今まで通りの方法で解くことができるが、整数係数になおして解くことにより、計算が煩雑でなくなり計算ミスが減らすことができるという利点を理解させるように指導する。

例6の方程式 $(\frac{1}{3})x-4=(\frac{1}{5})x$ の分母をはらう際、例えば $5x-\cancel{4}=3x$ のように、分数だけに気をとられることのないように、等式の性質や分配法則の確認を行いながら指導する必要がある。

問5からもわかるように分数係数の1次方程式には、 $(x/4)-(1/2) = (x/2)+(3/4)$ のようなタイプと、 $(2x-1)/3 = (x+3)/2$ のような分子に多項式を含むタイプがあるが、後者の方がより難解で発展的な問題といえる。

いずれにせよ、分数に抵抗をもつ生徒が多く分数係数の方程式の学習指導には既習事項の確認を行いながら丁寧に進めるなど、十分な配慮を必要とする。

学級の様子

ア 親学級（習熟度標準以上）

明るく元気があり、発表や発言力のある生徒が多いので学習雰囲気は良好である。問題演習には意欲的に取り組む生徒が多く友人と協力しながら学習に取り組む姿勢がよい。その一方で、教師の説明時に私語等で注意を受ける生徒もあり、集中力にムラのある生徒もみられる。

よりよい学習雰囲気の中で集中力を高め、きめ細かい学習指導を展開する必要がある。

イ 少人数編成（習熟度基礎）

全体的に明るく、発表や発言等の学習意欲も良好である。しかし、既習事項の定着が弱く、新しく学習することがなかなか身に付かないでいる。また集中力に欠ける生徒や落ち着きのない生徒、ぼーっとする生徒が多く、教師の説明をしっかりと聞くことができないため、学習課題を十分に把握できないでいると思われる。

集中力を高めるとともに学習課題をしっかりと把握させ、既習事項の確認を行いながら学習指導を進める必要がある。

生徒の既習事項の実態

生徒の実態把握のため、「文字と式」の単元終了後に準備テストを実施した。

ア 事前テスト問題

1 次の式で にあてはまる数を求めなさい。

$$\begin{array}{ll} - 2 = 5 & 3 + \quad = 7 \\ \times 4 = 20 & \div 3 = 6 \\ + 5 - 7 = 2 & 2 \times \quad \times 3 = 24 \\ 4 \times \quad \div 3 = 8 & \times 3 - 2 = 4 \end{array}$$

2 次の数量を表す式を作りなさい。

1本 x 円の鉛筆2本と、1冊100円のノート3冊買ったときの代金の合計。

x kmの道のりを時速40kmの自動車で行ったときにかかる時間。

補充問題

1 次の計算をしなさい。

$$\begin{array}{l} 2(3x - 5) - 4 \\ 12\left(\frac{2}{3}x - \frac{3}{4}\right) \end{array}$$

2 みかんを5人の子どもに 個ずつ分けたら、3個余りました。このとき、最初にあったみかんの個数を表す式をつくりなさい。

イ 集計結果

		3組親学級	3組少人数編成	1組	2組	3組	4組	5組	全体
問題	正解	26人	12人	37人	37人	38人	35人	39人	186人
1	7	92.3%	100.0%	83.8%	91.9%	94.7%	82.9%	89.7%	88.7%
	4	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%	100.0%	91.4%	100.0%	97.8%
	5	100.0%	91.7%	100.0%	94.6%	97.4%	94.3%	97.4%	96.8%
	18	100.0%	75.0%	91.9%	89.2%	92.1%	85.7%	79.5%	87.6%
	4	84.6%	75.0%	91.9%	75.7%	81.6%	80.0%	89.7%	83.9%
	4	96.2%	75.0%	86.5%	83.8%	89.5%	85.7%	97.4%	88.7%
	6	92.3%	58.3%	89.2%	83.8%	81.6%	63.2%	84.6%	81.7%
	2	100.0%	58.3%	86.5%	91.9%	86.8%	85.7%	92.3%	88.7%
2	($2x+300$)円 単位ミス	15.4%	0.0%	8.1%	10.8%	10.5%	8.6%	12.8%	10.2%
	$x/40$ 時間 単位ミス	11.5%	0.0%	10.8%	16.2%	7.9%	11.4%	5.1%	10.2%
		34.6%	0.0%	27.0%	18.9%	23.7%	8.6%	30.8%	22.0%
1	$2x-10$	53.8%	0.0%	32.4%	29.7%	36.8%	25.7%	46.2%	34.4%
	$8x-9$	42.3%	0.0%	29.7%	29.7%	28.9%	20.0%	46.2%	31.2%
2	($5y+3$)個 単位ミス	7.7%	0.0%	5.4%	5.4%	5.3%	2.9%	7.7%	5.4%
		26.9%	0.0%	29.7%	16.2%	18.4%	20.0%	17.9%	20.4%

考察と学習指導への活用

逆算の考え方は全体的に身に付いている。

分配法則の内容については、親学級の生徒については身に付き始めているので、確認を行いながら学習指導を展開する。一方、少人数編成の生徒については正答率 0%という実態を受け、分配法則の復習にも学習指導の重点を置く必要がある。

立式については全体的にまだ弱いので、丁寧な学習指導を必要とする。

授業の展開
ア 親学級（習熟度標準以上）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	個に応じた指導
導入	前時の復習	係数に小数を含む方程式の解き方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・整数係数になおしてから解く利点は何か。 ・用いた等式の性質と法則は何か。 	
課題把握	例題の説明 p.77 例 6	方程式 $(1/3)x - 4 = (1/5)x$ を解きなさい。 係数に分数を含む方程式を解きやすくする方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握をさせる。 ・整数係数になおす利点の確認を行う。 	
全体追究	用語の説明 分母をはらう	方程式を解く。 解き方の再確認 分母をはらうとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・文字式の計算と混同しないように、等式の性質を利用していることを強調する。 ・分数だけに気をとられないように、分配法則を利用していることを強調する。 ・解き方の手順をしっかりと定着させる。 ・教科書で確認 	
個人追究	問題演習 p.77 問 5	次の方程式を解きなさい <ul style="list-style-type: none"> ・ $(x/4) - (1/2) = (x/2) + (3/4)$ ・ $(2x-1)/3 = (x+3)/2$ 	<ul style="list-style-type: none"> ・分子が多項式になっているので抵抗が感じられるが、既習事項であることを確認する。 	机間指導 解答できた生徒への発展問題
確認		黒板での解答	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の黒板での解答 	
全体	用語の説明 1次方程式	1次方程式とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・1次式について確認する。 	
個人追究	問題演習 p.78 基本の問題	基本の問題に取り組む		机間指導 解答できた生徒への学習課題 学習に遅れがちな生徒への対応
まとめ		節のまとめを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・方程式を解きやすくする工夫について 		

少人数編成（習熟度下位）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	個に応じた指導
導入	今日の計算	次の計算をなさい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ $(1/3) + (1/4)$ ・ $(1/3)x \times 12$ ・ $\{(1/4)x - 1\} \times 12$ 既習事項の確認を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数が難しいなら、整数の場合に問題を簡略化し考えさせる。 ・ 1次式と数との乗法の復習を行う（分配法則等）。 	机間指導 分数の扱えない生徒への対応
課題把握	例題の説明 p.77 例6の簡略問題	方程式 $(1/3)x = (1/4)x - 1$ を解きなさい。 係数に分数を含む方程式を解きやすくする方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題把握に重点をおき、本時の学習活動につなげる。 ・ 小数係数の方程式の解き方にならう。 	
全体追究	用語の説明 分母をはらう	方程式を解く。 解き方の確認 分母をはらうとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師中心の指導にならないように、子どもの発言を求めめる。 ・ 整数係数になおす理由 ・ 用いた等式の性質 ・ 分配法則の利用 ・ 教科書で確認を行う。 	
個人追究	問題演習	方程式 $(1/2)x - 4 = (1/3)x$ を解きなさい	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、解答の手順を全体で確認する。 ・ 個々の生徒の学習の状況をしっかりと把握しながら、机間指導を行う。 	机間指導 解答できた生徒への学習課題 学習の遅れがちな生徒の対応
全体	用語の説明 1次方程式	1次方程式とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書で確認を行う。 	
個人追究	問題演習 p.78 基本の問題	基本の問題に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が足りないと思われるので、問題の精選を行う。 	机間指導 解答できた生徒への発展問題
まとめ		節のまとめを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 方程式を解きやすくする工夫について 		

5 少人数授業、習熟度別指導の効果（アンケートのまとめ：7月中旬実施）

(1) 生徒対象の調査結果

TT指導と少人数指導はどちらがいいですか（選択式）

項目	人数	割合
ア．TT指導がいい	14人	7.6%
イ．少人数指導がいい	169人	91.8%
ウ．無答	1人	0.5%
合計	184人	

少人数指導がいい理由（記述式／複数回答）

理由	人数	割合
ア．自分にあった授業（ペース）で学習できる	23人	12.5%
イ．個人差があるから	6人	3.3%
ウ．学習に遅れる人もいるから	32人	17.4%
エ．（自分が）学習についていけないから	18人	9.8%
オ．（1つの学級では）よりわからなくなる	5人	2.7%
カ．授業が順調に進む、わかる人は先に進める	15人	8.2%
キ．先生が2人いるなら分けた方がいい	1人	0.5%
ク．効率がいい	3人	1.6%
ケ．人数が少なくなるから	8人	4.3%
コ．発表できるチャンスがある（多い）	20人	10.9%
サ．先生がよくまわってくる	1人	0.5%
シ．わかるまで教えてくれる	15人	8.2%
ス．集中できる、静か	6人	3.3%
セ．やりやすい	8人	4.3%
ソ．質問しやすい	5人	2.7%
タ．雰囲気が違う	1人	0.5%
チ．その他	10人	5.4%
ツ．無答	7人	3.8%

割合は184人との対比

(2) 保護者対象の調査結果

習熟度編成について賛同できるか（選択式）

項目	人数	割合
ア．賛同できる	52人	68.4%
イ．どちらかといえば賛同できる	20人	26.3%
ウ．どちらかといえば賛同できない	1人	1.3%
エ．賛同できない	1人	1.3%
オ．わからない	2人	2.6%
カ．無答	0人	0.0%
合計	76人	

アンケートの考察

少人数指導に賛成している生徒が大多数を示しており、その意義が生徒にもおおむね理解されているものと考えられる。「授業が順調に進む、わかる人は先に進める」という意見が15人もいるのには驚いた。個に応じた指導というと学習に遅れがちな生徒の対応と考えがちだが、理解の高い生徒を伸ばす指導も丁寧に行わなければならない。

保護者のアンケートからも、「分からない授業をきくより、少しでも理解できるようになる授業の方が子どもたちにとってもよい結果がでることと思います」等のおおむね良好の支持がある。生徒の実態として、数学を苦手とする生徒はまだ多く、なお一層基礎的・基本的事項の定着を図る必要がある。